

## 日本橋常盤小学校を対象としたまちづくり学習の授業効果の持続性

(独)鉄道・運輸機構 正会員 ○市川 健太  
 (財)道路新産業開発機構 正会員 鈴木 葉子  
 芝浦工業大学 正会員 岩倉 成志  
 (株)道路計画 正会員 野中 康弘

## 1. はじめに

地域再生や地域活性化の推進には、意欲ある住民の参加が必要不可欠である。そこで、住民にまちへの興味、関心を持ってもらうひとつの手段として、小学校の総合的な学習や社会科を通じた「まちづくり学習」が実施されている。これによって幼少期からまちへの愛着心を育むことで、将来のまちづくりを担う人材育成や、子どもの周囲の大人への波及効果が期待される。

まちづくり学習の効果は、実施直後の調査において検証されているケースが多い。しかし、子どもがまちに貢献できる年代に成長した時まで、学習の効果が持続しているか否かは、検証はされていない。

本研究では、2004年度に東京都中央区立常盤小学校5年生の総合的な学習として実施された、「まちづくり授業」(以降、授業という)を受講した児童とその保護者、教員に対して追跡調査を実施する。授業当時、小学5年生であった児童は高校2年生に成長している。授業から5年を経て授業の効果や波及効果がどう持続しているかについて検証し、今後の授業内容や実施方法の改善の方向性を探ることを目的とする。

## 2. 2004年度に実施したまちづくり授業

授業は日本橋のまちと親しみ、日本橋の未来とまちづくりのあり方を考え、生徒個人の探究心や問題解決能力、表現力等を育む目的で実施されている。

表1に授業の概要を示す。最大の特徴は、実施主体が大学生を中心としたまちづくり支援団体であったこと、2・3学期で50コマに及ぶ総合学習を支援したことである。具体的な授業内容は表2示すように、5つのステップを設けて授業を設計している。なお、全授業の実施直後に児童と保護者に授業の感想とまちへの意識変化を調査している。

## 3. 追跡調査の概要

調査方法は、郵送アンケート調査とその結果に基づくインタビュー調査の2段階で構成する。

【キーワード】 初等・中等教育、まちづくり学習、授業効果の持続性、総合的な学習

【連絡先】 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学 (TEL) 03-5859-8354

表1 授業概要

対象学校	東京都中央区立常盤小学校
対象学年	小学5年生 (1学級:25名)
授業期間	2004年9月～2005年3月 6ヶ月間
授業回数	50コマ (1コマ45分)
実施主体	日本橋学生工房 <sup>※</sup>

※日本橋学生工房は、「日本橋地区再開発」を学生の視点から考え、地元の方々と交流し、実際に活動することを通して今後の日本橋のあり方を提案する団体。2003年～08年まで芝浦工業大学土木工学科交通計画研究室も参加

表2 授業内容

STEP	授業内容	コマ数
①	日本橋を知る(地域のことを正しく理解) インターネットや図書など様々な情報を収集・整理	4
②	日本橋をみる(現場視察) ステップ①で情報を整理した上で、実際に地域を見学	4
③	日本橋の未来を考える(発想を整理し提案作成) KJ法から問題を整理し、提案を作成	16
④	日本橋の未来をつくる(模型作成) ステップ3で提案を模型としてカタチに創出	19
⑤	提案を発表する(プレゼンテーション) 自分たちの提案をまちの方にわかりやすく伝える	7
計		50

まず、アンケート調査により、生徒とその保護者それぞれに対して、①「授業内容の記憶」、②「授業の運営方法の評価」、③「授業がきっかけとなった行動変化や意識変化」を質問した。アンケート票は生徒と保護者それぞれに24部配布し、ともに19部の回収が得られた(一部、電話による催促を加えた結果である)。次に協力の意向を得られた10名の生徒について、1名ずつを基本にインタビュー調査を実施した。さらに、当時の校長、副校長、担任教諭に授業の実施方法の良否や感想についてインタビュー調査を実施した。

## 4. まちづくり授業実施から5年後の授業効果

授業直後のアンケート調査と今年度の追跡調査から授業効果の持続性をまとめる。

## 4.1 生徒への授業効果の持続性

## (1)授業直後の印象と現在の記憶の比較

図1で授業直後と現在を比較すると、授業直後に興味をもっていた授業内容ほど、記憶に留まる傾向にある。また、インタビュー調査においても「楽しかったから覚えている」といった発言が目立ち、実習的要素が大きい授業内容がより記憶の持続に効果的であった

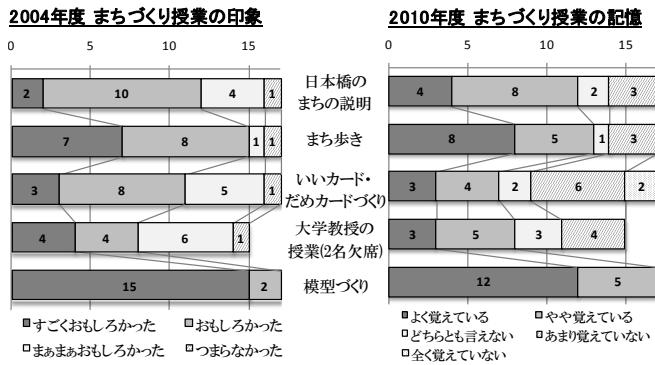


図1 まちづくり授業の印象と記憶 【n=17】

表3 アンケート結果まちへの関心 【n=24】

2004年度 アンケート調査結果	すごく いきたい		してい きたい		やや していきたい			してい たくない		欠席	
	Yes	No	Yes	No	Yes	No	未回収	Yes	No	Yes	No
これからも日本橋を よんでいきたい	3		14		5			0		2	
2010年度 アンケート調査結果	Yes	No	Yes	No	未回収	Yes	No	未回収		Yes	No
まちに興味を 持つようになった	3	0	10	2	2	0	2	3	-	1	1
まちづくりに関心を 持つようになった	3	0	6	6	2	1	1	3	-	2	0
日本橋学生工房のような 組織で活動したくなった	1	2	5	7	2	1	1	3	-	1	1
卒業後も日本橋へ 訪れるようになった	3	0	6	6	2	0	2	3	-	0	2
地域行事に 参加するようになった	1	2	4	8	2	0	2	3	-	0	2
まちづくりに 参加するようになった	0	3	1	11	2	0	2	3	-	0	2

と考えられる。なかには、小学校の授業は「模型づくりしか覚えていない」と述べる生徒もみられる。

(2)まちづくりへの参加意向と地域への愛着の醸成

表3に示すように、授業直後の調査では欠席者を除く全員が日本橋に関心を示していた。一方、本研究では13名が「まちに興味を持つようになった」と回答し、10名が「まちづくりに関心を持つようになった」と回答している。インタビュー調査でもまちづくりの場があれば参加してもよいと述べる生徒が10名中6名おり、「学生工房でまちづくりをしたい」とまちづくりに強い意志を示す生徒も1名存在する。このように授業効果は5年を経て薄れる傾向にあるものの、多くの生徒に授業効果の持続性がみられることがわかる。

さらに、授業直後の調査では生徒全員が居住している地域のまちづくりに参加したいと回答していた。しかし、本研究のインタビュー調査では生徒の10名中8名は「自分の住んでいるまちに愛着はない」と述べ、授業効果の持続性は確認できなかった。生徒の多くは本授業以前から日本橋の行事に参加しており、「行事等でまちの方々からお世話になっていたの、授業のモチベーションが上がった」と述べる生徒もいたことから、地域行事への参加やまちの方々との接触が、地域への愛着心の醸成に影響を及ぼしていると考えられる。

4.2 保護者への波及効果

授業直後の調査では、20名の保護者が日本橋のまちづくりへの参加意識が「高まった」、「やや高まった」と回答していた。本研究の調査では、そのうち16名から回答が得られ、10名が「授業がきっかけでまちづくりに参加した」と回答している。このことから、授業を実施する目的のひとつであった、保護者への波及効果の持続性が確認される。

5. まちづくり授業の評価

(1)教員以外の外部に関わる価値

授業は大学生を中心に進められ、大学教授やまちの方々のお話を聞く機会も設けている。その結果、「外部の方と話すのは新鮮で楽しかった」と述べる生徒が多く、外部との接触が授業の関心を高める要因となっている。また、教員は「外部と教員との信頼関係が重要である」ことを前提に、「教員の負担軽減」、「児童のまちへの思い入れが一層深まる」等のメリットを感じている。

(2)まちづくり授業の実施タイミングと実施期間

小学校5年生を対象とした実施時期は、保護者19名中14名が「ちょうどよかった」と回答し、6ヶ月間という授業期間も生徒19名中11名が「ちょうどよかった」と回答している。また、教員からは「現在の学習指導要領が変更され50コマ実施するのは難しくなっているものの、同じ内容で実施するには最低30コマは必要である」との回答を得ている。

(3)まちづくり授業の有用性

インタビュー調査を実施した生徒10名全員が「今後もまちづくり授業を実施した方がよい」と述べ、授業の有効性を感じている。また、教員は「授業によって、将来に渡って日本橋を気にし続ける。授業時にはまちづくりとして捉えられなくても、成長して社会に関わる時に、まちをもう1度考えるようになるだろう」と回答している。

6. おわりに

本研究では5年後という中期的な間隔でまちづくり授業の持続性を明らかにした。生徒、保護者、教員への調査から本授業が有用で、5年を経た現在でも評価が高く、こうした授業を広く展開する意義を確認できた。今後は、さらに5年後の事後評価を試みたい。

【謝辞】調査にご協力いただいた常盤小学校の卒業生と保護者の皆様、ならびに学校関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

※本研究は、筆者が芝浦工業大学在学中に実施したものである。